

木祖村の御縁スポット

大平のシダレグリ



栗を拾い母親の薬代を工面する男の子の手が届く様に、弘法大師が呪文を唱え、栗の枝を垂らした。その後この栗は、大きくならずそのときのままである。

栗屋の泉



三千仏堂の横より清水が湧きだしており、この清水を飲むと双子が生まれるとの言い伝えがある。

子生みの栂



昔栂の木の空洞に捨て子があつた。子の無い人が拾い育てると、その子は良い子に育ち一家繁盛した。その後も捨て子があつたが、みな拾われて、幸せに暮らした。

上高地・野麦峠へ
境峠 (あと1.8km)

松本市

縁結神社

水木沢天然林行き分岐 (あと3km)

スキー場・こだまの森行き分岐 (あと7km)

味噌川ダム (奥木曽湖)

味噌川ダム方面分岐

大平のシダレグリ

栗屋の泉

子生みの栂

縁結グッズ 販売場所

縁結神社ラベル 販売場所 (日本酒木曽路・1合瓶)

〒399-6203 長野県木曽郡木祖村小木曾5441番地2 (しらかば平別荘地管理棟)

(http://enmusubijinjya.jimdo.com)

縁結神社HP



縁結神社の由来

ある年の十月、出雲大社の神様会議で、縁結びの御神体を信濃の国府松本へ送ることになり、三人の使者が出発しました。使者はこの土地の峠で、大雪のため野宿することとなりました。その夜眠り込んだ三人の枕元へ白装束の翁が現れ、「この林へ祀るべし」とお告げを残して姿を消しました。夜が明けて三人を助け出そうと上がつてきた村人たちに、使者達は昨夜見た不思議な夢物語を話しました。やがて村人たちの協力で祠が造られ、この地に御神体をお祀りすることとなりました。

*「縁結神社由来記」より

昔、商人の家の娘と奉公人が恋におちきました。怒った主人から二人は逃げ出し、縁結神社に辿り着きました。縁結神社では男の人の親指と女の人の小指だけを使って木の枝を結ぶと、結ばれると言ひ伝えられていました。二人はそばにあった桜の木の枝を結び始めました。夜になってもなかなか輪ができません、空が明け始めたころやと桜の枝が輪をつくり、その光景を見た追手達はあきらめ、二人の願いは叶えられました。

*「私たちが調べた木曽の伝説第一集」より

お問い合わせ 木祖村観光協会

長野県木曽郡木祖村藪原1191-1 ☎0264-36-2543



木祖村イメージキャラクター 源流の源気くん

木曽川の水がうまれる 原流の里 信州・木祖村